

生化学自動分析 装置を導入



生化学検査という言葉をご耳にしたことがありますか？
血液中の血清成分を分析する検査を言います。メタボリック
症候群でおなじみのコレステロールも生化学
検査に含まれます。

今回、従来使用の分析装置に代わり、新しく生化学自動
分析装置を導入しましたのでご紹介します。

自動分析装置の導入により、検査処理速度も1時間に
最大2000テストと上がり、一度に出来る処理検体量
が100本から150本と増えました。

また、従来の検査方法とは違い測定方法が免疫検査
に関しては電気化学発光となった為に、データの安定
性が以前に比べて良くなりました。

この分析装置の導入により、今まで院内で出来なかつ
た心不全、甲状腺関連検査が迅速に出来るようになりました。

機械の導入により、患者さんの診察に、より一層役立
つ診療前検査が可能となりました。



最新型

16列マルチ スライスCT装置を 導入しました



当院では、2010年9月、最新型の16列マルチスライ
スCT (BrillianceCT16) を導入いたしました。

従来のCTでは、1秒間に数枚の画像しか得ることが
できませんでした。そのため撮影時間が非常に長く、患
者様に大きな負担を与えていました。

この度当院が導入した16列マルチスライスCTは1
秒間に数十枚の画像が得られます。このため、撮影時
間が非常に短くなりました。

更にはX線管球や検出器の性能が向上し、高精細な
画像が得られるようになり、
この高精細な画像を利用
した、3次元画像も得られ
るようになりました。

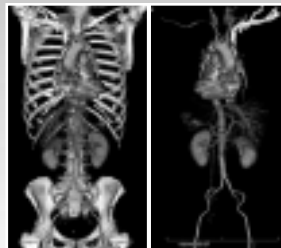


16列マルチスライスCT臨床画像



胸部画像

胸部全体を、15秒程度の
息止め時間で撮影でき
ます。さらに、横断面
だけでなく、縦断面
の画像も得られます。



胸腹部3次元画像

造影剤を使用して撮影
することで、血管の形
態情報を得ることが
出来ます。



金属画像

手術後の金属を入れた
画像でも、アーチファ
クトを低減した鮮明
な画像が得られます。